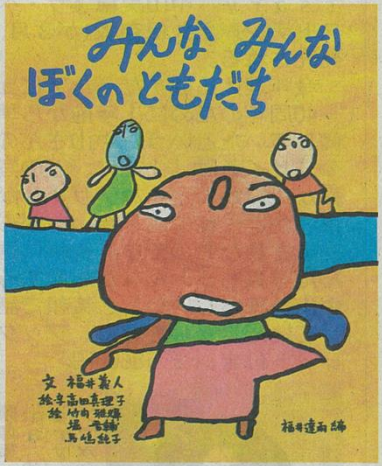


令和7年1月4日(土)付



「からだがよくても、ちえがおくれているも、どんな子どもでも、みんなおなじ人間。うつくしい心をもった人間や。そして、ぼくのともちや。」

知的障害者施設経営者の子どもで小学3年生の「ぼく」は、知的障害のある子どもと生活しているから頭が悪いと、同級生から心ないことばでいじめられています。でも、「ぼく」は一緒に生活するケンちゃん、みちよちゃん、カツミちゃん、きよみちゃん、じゅんちゃん、のぶひこくんが知的な遅れはあるものの、とても優しい心を持つていてことを誰よりも知っています。



「みんな みんな ぼくのとちだち」の表紙(文/福井義人、絵/高田真理子、雅輝、堀晋輔、馬嶋純子、福井達雨編、偕成社)

### 知的障害のある優しい友達

みんな みんな ぼくのとちだち (偕成社)

米にも伝わり、世界に広がりました。71年の「国連知的障害者権利宣言」、75年の「国連障害者権利宣言」にもノー・マライゼーションの理念が反映されます。そして81年、「国際障害者全参加と平等」の行動計画のテーマは「完全参加と平等」。日本でもこの年を境に、ノー・マライゼーションへの取り組みが注目されるようになりました。この絵本が出版された1980年はそんな時代でした。しかし、当時の障害者施設は人里離れた所にあるのが普通。その後、施設を出て地域で生活するのがあるべき姿だと「脱施設化」が進められましたが、最近でもグループホ

ームの建設に対して「障害者は怖い」「地価が下がる」などと住民から反対運動が起こるようになり、ノー・マライゼーションの進展は十分とはいえないようです。障害のある人への偏見や差別は無知と無関心、あるいは一方的な哀れみと同情から起こります。冒頭の「ぼく」の言葉は続きます。「だから、ぼく、わるくち

いうともだちを、「かわいそうやなあ。」とおもっているんや。」日本では障害者基本法に基づき、毎年12月3～9日を「障害者週間」と定めています。障害者が社会、経済、文化、その他あらゆる分野の活動に積極的に参加することを促進するため、国と地方公共団体が民間団体などと連携して、障害者の自立や社会参加を支援するためのさまざまな取り組みを展開します。2024年も12月に、内閣府のホームページで誰でも視聴できるオンラインセミナーが複数開かれました。セミナーを通じて「ぼく」の悲しみの意味に気付いていただき、ノー・マライゼーション推進の一員になっていただけたらと思います。(島根県立大人間文化学部 准教授・水内豊和)

「だから、ぼく、わるくち

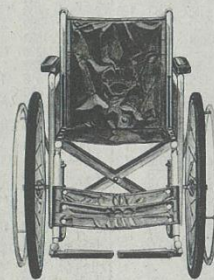
土曜掲載





### わたし いややねん

吉村敬子・文  
松下香住・絵



「わたし いややねん」  
の表紙 (吉村敬子・文、  
松下香住・絵、偕成社)

「わたし でかけるのん  
いややねん」  
「みんな じろじろ見るから  
いややねん」

## 社会的障壁へのメッセージ

わたし いややねん (偕成社)

脳性まひがある吉村敬子さ  
んのシンブルでストリートな  
メッセージと、吉村さんの車  
いすを押す、友人の松下香住  
さんが描いた車いすの絵だ  
けで構成された作品です。車  
いすは、作者の言葉とともに  
見せる表情が変化していき  
ます。

正直なところ、中高生ぐら  
いでないと作品を理解するの  
は難しいと思います。少し解

説明しよう。

皆さんは「障害者」とはど  
のような人を指すか、正しく  
理解していますか。

「障害者」とは身体、知的、  
精神障害(発達障害を含む)  
その他の心身の機能の障害が

あり、障害や社会的障壁によ  
って日常生活や社会生活に制  
限を受けている人であると、  
障害者基本法2条に定義され

ています。心身の障害だけで  
はなく、社会的障壁による生  
きづらさも指して、障害者と  
していることが重要です。

2011年の改正でこう定  
められるまで、障害のある人  
が日常生活で制限を受けるの  
は「その人に障害があるから」

で、訓練やリハビリで乗り越  
えるもの、と考えられてしま  
した。「個人モデル」「医学

モデル」といいます。そのた  
め、改正前の障害者の定義は、  
障害があるために日常生活や  
社会生活に制限を受ける人と  
されていました。

この絵本の出版は1980  
年。作中の言葉にはそんな障  
害観が表れています。

「先生が いわはつた  
『強い心を もちなさい 強  
くなりなさい』って」  
「そやけど なんで わたし

が 強ならなあかんねんやろ  
ーか」

しかし現在は、人の多様性  
に社会が対応できていないた  
め障壁が生まれ、それが障害  
となるので、社会が障壁を取  
り除かねばならないと考える

「社会モデル」を取っていま  
す。例えば、肢体不自由者に  
移動の制限があるのは足が不  
自由だからではなく、スロー

プやエレベーターがないか  
ら、と考えます。

もう障壁はなくなったでし  
ょうか? 段差など物理的障  
壁に対してはエレベーターや  
スロープの設置で改善が進  
んでいるようです。では、心  
ない言葉を向けたり、障害者  
をかばうべき存在だと考えた  
りする心理的障壁はどうでし  
ょう?

いまだに、「車いすは狭い  
エレベーターで場所を取って  
邪魔」といった障害に対する  
差別や誤解が大きな「障害」  
となっております。障害のある  
人が人権を等しく尊重される  
ためには、社会的障壁を取り  
除くことが必要で、責任は社  
会にあります。社会を構成す  
る私たちの誰もが、そのこと  
を理解し、具体的な行動へつ  
なげることが求められます。

(島根県立大人間文化学部  
准教授・水内豊和)

|| 土曜掲載 ||



# 本紙連載で取り上げた絵本

# 「みんなが主役」特設コーナー

## 認め合う大切さ伝える

### 県立大松江

山陰中央新報デジタルと本紙くらし面で連載する「みんなが主役！ 絵本の世界」で取り上げた本を紹介する特設コーナーが、島根県立大松江キャンパス（松江市浜乃木7丁目）に設けられた。分け隔てのない「インクルーシブ社会」がテーマ。互いの違いを受け入れ、認め合う大切さを描く国内外の絵本が並ぶ。

（山口春絵）



「みんなが主役！ 絵本の世界」で取り上げられた作品がそろったコーナー＝松江市浜乃木7丁目、島根県立大学松江キャンパス

「みんなが主役！ 絵本の世界」では、インクルーシブ社会に詳しい同大人間文化学部の水内豊和准教授（48）が、障害者への差別やエンター問題といった社会課題を扱った絵本の中から、毎週1冊を紹介している。

特設コーナーは連載が始まった8月、大学内の「おはなしレストランライブラリー」に設置。紹介された作品を集め、手に取ってもらいやすくした。企画者で司書の尾崎智子さん（48）は「絵の力と短い文章で、幅広い年齢に分かりやすく伝えられるのが絵本の魅力」と話す。

貸し出し可能で、義足をした子犬が描かれた表紙に引かれ、未就学児が義足が題材の絵本「くうちゃん」を借りるなど、子どもたちの関心を呼ぶ。

車いすに乗る「ろって」の活躍を描いた絵本「ろって

てちゃん」（福音館書店）も人気を集める。「うさこちゃん」シリーズでもおなじみのオランダの絵本作家ディック・フルーナさんの作品で、利用者からは「いろんな子がいることを、考えさせられた」と感想が寄せられたという。

コーナーは、コラムに載った作品のほとんどがそろった。尾崎さんは「読めば視野が広がる作品ばかり。絵本の楽しみ方も広がればうれしい」と話している。

おはなしレストランライブラリーは木曜日曜開館。





うさこちゃんのクラスに新しい友だちが転校してきました。その子は他の子と見た目がちよつと違い、右目が垂れています。

「くらすの みんなは、そのこのことを たれみみくんとよびました。もちろんそれは、ほんとうの なまえでは、ありません。ほんとうの なまえは、だーんです。」

解、差別、いじめなどに直面することを「見た目問題」といいます。

体の部位の欠損、あざ、傷痕、脱毛症、口唇裂、口蓋裂、アルビノ、アトピー肌などの特徴がある人が、「見た目問題」の当事者となっています。

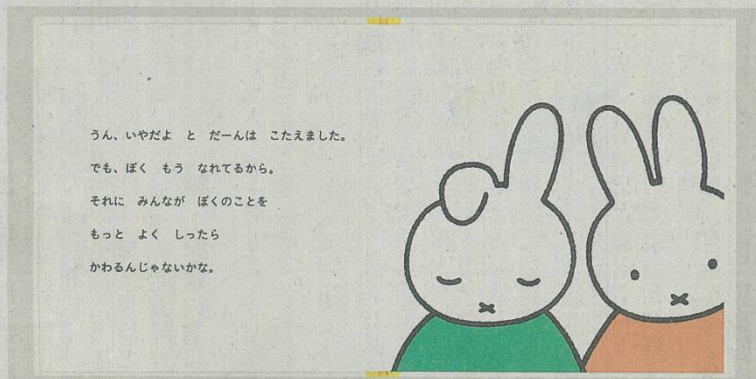
こうした特徴は本来、他者との関係性で問題となるものではないはずですが、人と違う外見を持つ人たちが学校生活や就職、恋愛などで苦勞しています。



「うさこちゃんとたれみみくん」の表紙 (ディック・ブルーナ文/絵、まつおかきょうこ訳、福音館書店)

### うさこちゃんとたれみみくん (福音館書店)

## 見た目問題は「よくない」



「うさこちゃんとたれみみくん」の一場面 (ディック・ブルーナ文/絵、まつおかきょうこ訳、福音館書店)

メディアによる画一的な「美しい」「格好いい」「かわいい」などの基準によって苦しんでいる人も少なくありません。

「見た目問題」は、見る側

「みんなが、あなたのこと たれみみくんって、いうの いやじゃない？」

「うん、いやだよ」「でも、ぼく、もう、なれてるから。それに、みんなが、ぼくのことを、もっと、よく、しつたら、かわらんじゃないかな。」

交流サイト(SNS)の普及で、障害や見た目に特徴のある人が、自分について発信することが増えてきました。

多くのフォロワーがいる人もいます。

私は研究で米国に行くたびに必ずおもちや屋さんに寄ります。そこには、有名な女の子の人形シリーズに髪の毛や目、肌の色にさまざまな種類があるだけでなく、車いすユーザーやダウン症、そしてLGBTQ(性的少数者)の人もあります。日本では、こ

のような多様性を表現したおもちやは見かけません。

「見た目問題」は、見る側ではないでしょうか。

うさこちゃんはおもちゃに「たれみみ」と呼びかけます。うさこちゃんのように、何かの間違っていることを認識し、発言したり行動したりする人です。誰もがこうした問題に対してアップスタンダーになり、多様性を受け入れ、違いに寛容な社会を築くことは大切です。

子どもだけでなく大人にも大人気のうさこちゃん。数あるグッズには、だーんをモチーフにしたものもあるのですよ。ぜひ調べてみてください。

(鳥根県立大人間文化学部 准教授・水内豊和)

|| 土曜掲載 ||



松江ゆかりの明治の文豪・小泉八雲（ラフカディオ・ハーン、1850～1904年）の妻・セツ（松江出身、1868～1932年）は、多くの民話や日本神話を八雲に語って聞かせ、八雲の名著『知られぬ日本の面影』『怪談』の執筆に貢献したという。どんな話を伝えたのか、小泉八雲記念館（松江市奥谷町）の小泉八雲館長（63）に紹介してもらい、名作成立の過程を浮かび上がらせる。

「雪女」は小泉八雲の著書『怪談』（1904年）に収録された

# セツの聞かせた物語

～八雲の名著でたどる足跡～

（小泉 凡）

## 「雪女」



こいずみ ぼん 1961年、東京都短期大学部教授。現在は名誉教授。小泉出身、小泉八雲、セツのひ孫に当たる。八雲記念館館長。主筆に『民俗学』、小泉八雲―怪談四代記―八雲のいたざら。高校教員。学芸員を経て島根県立大らなど。

代表作の一つ。既に映画、映画アニメ、演劇、歌舞伎、オペラ、コンサート、ボリウッドなどさまざまな表現によって現代社会で再興されています。八雲がこの物語を創作したのは東京・大久保ですが、八雲が「雪女」を知るのは、それ以前の松江時代にさかのぼります。それは、小泉セツの養父の祖父・稲垣万右衛門が、松江の雪女に遭い、恐怖の叫びをあげて逃げ帰ったという体験談や、再丈が大きなつて人を驚かすが再丈が聞き取り調査を行ったところ、一

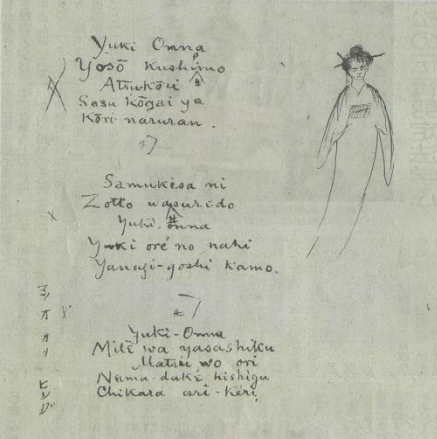
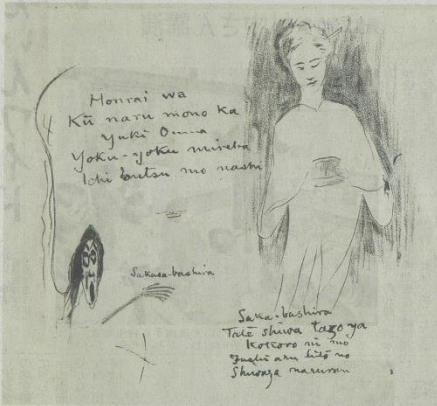
# 再話され新たな土地に根付く



小泉八雲と小泉セツ（左）夫妻（小泉八雲記念館提供）

切類話が見つかりませんでした。一方で、よく似た話は、青柳から遠く離れた長野、新潟、富山、福島などに口承文芸として存在しています。いったいこれはどういったことなのか？ 青柳に近い西多摩郡檜原村には、きりと榎木の精霊との交渉の物語が、山仕事をする人々の間で伝えられてきました。これを宗八が八雲に提供し、八雲が物語を雪女に再考し、異端婚の物語として再話したと想像されるのです。大島廣志「『雪女』伝承論」『民話』

「雪女」は、きつとこれからも愛読を遂げながら、各地に出渡るかもしれません。 11月10日掲載



上下とも小泉八雲が描いた雪女のイラスト（『妖魔話』より）小泉八雲記念館提供

1下とも小泉八雲が描いた雪女のイラスト（『妖魔話』より）小泉八雲記念館提供

島根県大  
サークル

# 来月16日 浜田でイベント

## 幼児〜小学低学年が対象

子どもたちが島根県立

大松江キャンパス(松江

市浜乃木7丁目)の学生

と一緒にもの作りを楽し

むイベントが2月16日午

前10時〜正午、浜田市野

原町のいわみーるであ

る。スノードームやかば

んを作って遊ぶ。

大学公認サークル「親

子活動サークルふるー

る」が主催して開く。同

大人間文化学部保育教育

学科の水内豊和准教授

臨床発達心理学と、保

育士や教員を目指す学生

が、発達に気がかりのあ

る子どもとその家族を対

象に「けんだいふるーる」

と題し、工作やゲームで

気兼ねなく遊べる場を設

けている。

「けんだいふるーる」

の浜田での開催は初め

て、5種類のもの作りや、

手作りの魚釣りゲームが

楽しめる。共催する島根

県西部発達障害者支援セ

ンターウィンドのブー

や協力団体の小物・作品

販売もある。

幼児から小学校低学年

程度の子ともと家族が対

象。無料。当日参加可能

だが、応募フォームから

2月14日までに申し込む

と、確実に全ブースを回

れる。問い合わせは水内

准教授、メールcdplab

2023shimane@gm

ail.com

# 学生ともの作り楽しもう

当日参加OK!  
当日参加OK! 当日参加OK!  
当日参加OK!

2025  
2/16(日) 10:00-12:00 内園でいっで宅  
楽しいコーナーで作って遊ぼう!  
島根県立大学松江キャンパスの学生たちによる  
親子活動サークル「ふるーる」が  
浜田へ「けんだいふるーる」します  
10:00-12:00 内園でいっで宅  
当日参加OK!  
当日参加OK!  
当日参加OK!

会場  
内園  
費用  
無料  
対象  
幼児〜小学低学年程度までの  
子どもとそのご家族

イベント参加を呼び掛けるチラシ



応募フ  
ォームの  
QR  
コード





さきちゃんのお母さんは夕クシー運転手として、朝早くから夜遅くまで忙しく働いています。今日は、さきちゃんが待ちに待った6歳の誕生日。お母さんは会社に頼み込んで、この日の夜は特別に勤務を外してもらいました。ところが、遠くの街にお客さまを送った帰り道、道端で倒れている人を見つけ、その人のために病院を探すことに…。そんな事情を知らないさきちゃんは、自宅でおばあちゃんと一緒にお母さんの帰りを待っています。テーブルにはすでにおばあちゃんが作ったおもちが並んでいます。さきちゃんはぼつりとつぶやきます。「やくそくしたのに……」。果たして、お母さんは誕生日に間に合うのでしょうか。



「まよなかのたんじょうかい」の表紙(西本鶏介/作、渡辺有一/絵、鈴木出版)

### まよなかのたんじょうかい (鈴木出版)

## 大切な人思いやり生きる

を待っています。テーブルにはすでにおばあちゃんが作ったおもちが並んでいます。さきちゃんはぼつりとつぶやきます。「やくそくしたのに……」。果たして、お母さんは誕生日に間に合うのでしょうか。

さきちゃんの家族は、おばあちゃんとお母さん、さきちゃんの3人暮らし。お父さんは、さきちゃんが小さな頃に病気で亡くなりました。現代では、家庭の形はさまざまです。離婚や死別、未婚といった事情で両親がそろわ

ない家庭もあれば、ステップファミリーや、多様な性のあり方に基づく家族も増えてきました。「でも、さみしいとおもったことは、ありません。おばあちゃんも、おかあさんも、さきちゃんを、かわいがってくれるからです」とあるように、この物語からは、思い

や友人の誕生日を全て暗記して、必ず心のこもったメッセージカードを贈る子がいます。いろいろなエピソードをうかがうに、その子の家庭は家族全員が互いを深く思いやる温かい家庭。だからこそ、その子も「自分が誰かに思われるとうれしい。その分、自分も誰かを思いやりたい」という気持ちを身につけているのでしよう。誕生日は、そんな日々の思いを形にして祝う、特別な日です。

やりに満ちた家族の絆を想像させてくれます。

さきちゃんのような定型発達の子どもであれば、幼児期後半にもなると、他者の立場や感情を理解するようになります。しかし、自閉スペクトラム症のある子どもは、そうしたことの発達が遅れたり偏ったりすることがあります。私が関わる自閉スペクトラム症のお子さんの中に、家族

冬は寒さと相まって、家族や恋人など大切な人と過ごす時間が増える季節。この絵本は「大切な人と一緒に生きている」という、当たり前だけれども大切なことに改めて気づく、きっかけをくれる一冊です。

(島根県立大人間文化学部 准教授・水内豊和)

土曜掲載